

令和 4 年 5 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23004

研究課題名（和文）古代中国兵学思想史における天文占の理論構造について 新出土文献を活用して

研究課題名（英文）The theory of Astronomical Divination in history of Chinese military thought :
relying on Excavated texts

研究代表者

椋島 雅弘 (KABASHIMA, MASAHIRO)

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：90823807

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、新出土文献を活用し、古代中国兵学思想史において、占術がどのような理論（根拠）に基づいて成立しているのか、またその歴史的展開について検討した。その結果、「暈占（「暈」は太陽や月の周りに現れる光の輪）の理論」「孤虚占の理論とその変遷」「兵陰陽の定義とその歴史的展開」の三点を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、中国兵学思想史研究に、「術数」「占術」というアプローチ方法を提供したことにある。これまで、中国兵学思想史の研究は、『孫子』をはじめとした人為を重視する兵学思想を中心に上げられてきた。また、術数・占術が取り上げられることがあっても、それはあくまで『孫子』との関わりの中で論じられるのみであった。これを根本から見直したのが本研究であった。また、社会的意義としては、現代でも信じられることがある占い（六曜占い・生年月日占い）の淵源について、一定の知見を提供する点が挙げられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I relied on Excavated texts, and researched theory and historical developments of Astronomical Divination in history of Chinese military thought. As a result, I clarified theory of Yun Zhan (暈占), theory and historical developments of Guxu Zhan (孤虚占), and Definition and historical developments of Bingyingyang (兵陰陽).

研究分野：中国兵学思想史

キーワード：中国兵学 術数 新出土文献 馬王堆漢墓帛書

1. 研究開始当初の背景

古代中国兵学思想史には、二つの大きな潮流が存在する。一つは、人為的努力によって勝利を目指す兵学思想史である。例えば、中国兵書で最も著名な『孫子』には、「彼を知り己を知れば百戦して殆うからず」という句が存在する。これは、開戦前の徹底した情報収集・分析という「人為的努力」を重視するものである。

もう一つは、占術を頼りに勝利を目指す兵学思想史である。ここでいう占術とは、主に太陽・月・星・雲・風・雨の形状・動き・変化を観察することで、未来の勝敗を見通す術を指す。中国では古くから、このような広い意味での天文事象は、天(神もしくは絶対的法則)の意志・兆しであり、それらを正確に観測することによって、軍の勝敗や攻撃すべき時期・場所等を知ることができると認識されていた。

これまでの中国兵学思想史の研究においては、前者は注目され続けてきた一方、後者については長らく等閑視されてきた。その大きな理由の一つは、占術に基づいた兵学思想が単なる「迷信」と見なされていたことに拠る。

2. 研究の目的

前述の通り、占術に基づいた兵学思想は、人為的努力によって勝利を目指す兵学思想に並ぶほどの位置を占めているにも関わらず、これまで積極的に研究されることは少なく、大きな課題であった。そのため、報告者は占術に基づいた兵学思想に注目し、研究を進めた。

具体的には、占術に基づいた兵学思想が、「どのような理論構造に基づいて成立・発展したのか」という点に注目した。なぜなら、占術がどのような理論構造によって形成されているのかということは、占術を信じる(重要視する)ための大きな根拠の一つだからである。従って、この点について明らかにすることは、古代中国兵学思想史において占術に基づいた兵学思想が重要な位置を占めていた理由を解明することに繋がる。

3. 研究の方法

関連する伝世文献に加え、古代の竹簡・帛書(新出土文献)や敦煌文献を活用して検討を進めた。具体的には、まず中心となる文献について、詳細な釈読を行った。その上で、占術がどのような理論に基づいているのか、特に天文と関わる占術・概念に注目し、他文献との相互比較を経て明らかにした。また、中国兵学思想史における展開・変遷についても明らかにした。

以上より得られた知見は、随時研究会・シンポジウムで発表して国内外の研究者から意見をもらい、それをもとにより精度の高い研究成果を目指した。

4. 研究成果

(1) 古代中国における量占の理論構造の解明

量占とは、月や太陽の周りがある量(光の輪)によって吉凶を占う術であり、天文占の一種である。量占について、まず『史記』『淮南子』を引用し根本的理論について確認した後、具体的な理論について、馬王堆漢墓帛書『天文氣象雜占』の量占を中心に多角的視点から考察した。量占は、原則として天の思想・天人感応思想が下地にあり、その上に同類相感の説が介在して成立していた。

『天文氣象雜占』の量占の場合は、主に量と軍・天子・国・地域との感応が確認できた。また、それぞれの占文に注目すると、複数のバリエーションが確認できた。また、あくまで可能性の指摘に留まるが、一部に関連する量占について、陰陽思想・五行思想との関わりを指摘することができた。

(2) 孤虚占の理論と歴史的展開の解明

孤虚占とは、特定の期間ごとに、攻めるべき方角や嫁を取るべき方角などを占う術である。具体的には、元々旬を基準として、旬ごとの孤虚を八方位から定めて占っていた。しかし後世、占う時間の単位が増えていき、また方位も八から十二へ変化し、太歳・十二月将・北斗七星・十六神といった天文的要素を付加していきながら発展した。そしてこの動きは、孤虚占と類似点の多い三種の式占が徐々に支持されるようになったことと密接な関わりを持っていた。

孤虚占は、戦国時代から唐宋にかけて、主要な占術の一つであったが、唐宋にかけて廃れていった。一方、それと変わるように、式占(遁甲占・太乙占・六壬占)が徐々に占術としての地位を確立していった。そのような中、孤虚占は式占を構成する要素(太歳・十二月将・北斗七星・十六神)を組み込み発展していった。しかし結局、孤虚占はかつての主要な位置を取り戻すことはできなかった。これは恐らく、式占に対抗するために変化したものの、式占と比べ数理性や体系性という点で秀でることができなかったからだと考えられる。

(3) 兵陰陽の定義と展開の解明

「兵陰陽」とは、天文占を含む占術に基づく兵学思想を検討する上で重要な概念である。この「兵陰陽」について、厳密な定義付けを行った上で、歴史的展開についても検討した。まず、『漢書』において登場する「兵陰陽」という概念は、検討した結果、「軍事に関係していること」、「術数思想（具体的には、三才思想を根拠としつつ、陰陽・五行・気・物類相感など、中国独特の自然観）に基づき未来を予測していること」、「問答形式か理論化された内容を含むこと」を満たすものだと定義付けられた。一方、「兵陰陽」とは別に、具体的で技術的操作を主に説く「兵数術」も存在していることも注目された。

また、『漢書』芸文志以降、「兵陰陽」という概念はある程度継承されたものの、厳密に受け継がれることはなかった。これは、そもそも中国兵学思想史上において、「兵陰陽」がその理論性・抽象性から継承されづらい側面を持つ一方、「兵数術」は具体的で後世の兵書・占書に継承されやすい側面を持っていることが原因であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 椋島雅弘	4. 巻 66
2. 論文標題 フランス国立図書館（B n F）における敦煌文献の調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中国研究集刊』	6. 最初と最後の頁 71-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/76763	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 椋島雅弘
2. 発表標題 古代中国における日月暈占について 馬王堆漢墓帛書『天文氣象雜占』を中心として
3. 学会等名 第72回中国出土文献研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 椋島雅弘
2. 発表標題 図書目録から見た兵学と術数について 兵陰陽を中心として
3. 学会等名 第三回科研費研究課題検討会（基盤研究（B）、課題「5～12世紀の東アジアにおける 術数文化 の深化と変容」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椋島雅弘
2. 発表標題 中国における孤虚占について 敦煌文献P.2610を中心として
3. 学会等名 第74回中国出土文献研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 湯浅邦弘編著、椛島雅弘（他17名）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 中国思想基本用語集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------